

第50回サントリー音楽賞受賞記念コンサート
Commemorative Concert of the 50th Suntory Music Award

高関 健 (指揮)

Ken Takaseki (Conductor)

指揮: 高関 健
Ken Takaseki, Conductor

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団
Tokyo City Philharmonic Orchestra

音楽をあまたの視点から解読する。
高関ワールド炸裂！



ノーノ:『2) 進むべき道はない、だが進まねばならない…アンドレ・タルコフスキー』
7つのグループのための

[サントリーホール国際作曲委嘱シリーズ No. 8委嘱作品(1987年11月28日世界初演 指揮:高関 健、東京都交響楽団)]
Luigi Nono: 2°) *No hay caminos, hay que caminar... Andrej Tarkowskij for Seven Instrumental Groups*
[Commissioned by Suntory Hall International Program for Music Composition No. 8
(World Premiere on November 28, 1987; Conductor: Ken Takaseki, Tokyo Metropolitan Orchestra)]

マーラー: 交響曲第7番 ホ短調「夜の歌」

Gustav Mahler: Symphony No. 7 in E Minor, "Lied der Nacht"

2022年8月12日(金) 19:00開演(18:20開場)
Friday, August 12, 2022 19:00

サントリーホール 大ホール

Suntory Hall, Main Hall

S席:9,000円 A席:7,000円 B席:5,000円 学生席:1,000円

◎サントリーホール・メンバーズ・クラブ先行発売:4月23日(土) 10時~29日(金・祝)

◎一般発売 4月30日(土) 10時~

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017 (10:00~18:00 休館日を除く)

サントリーホール・メンバーズ・クラブWEB <http://suntoryhall.pia.jp/>

チケットぴあ t.pia.jp / イープラス eplus.jp / ローソンチケット l-tike.com

※学生席はサントリーホールチケットセンター (WEB・電話・窓口) のみ取扱い。25歳以下、来場時に学生証提示要
お一人様1枚限り。※曲目等に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。※就学前のお子様
の同伴・入場はお断りしております。

主催: サントリーホール 協賛: サントリーホールディングス株式会社

S ¥9,000 A ¥7,000 B ¥5,000 Student ¥1,000
Pre-sale for Suntory Hall Members Club: Saturday, April 23, 2022 10:00- to Friday, April 28.
Booking opens: Saturday, April 30, 2022 10:00-
Student Ticket (age 25 or younger): To be purchased only at Suntory Hall Ticket Center
(WEB, Phone, and Box Office). Student ID required for admission, 1 ticket.
Concert details such as program or concert start time are subject to change.
No admittance to pre-school children.

Presented by Suntory Hall
Supported by Suntory Holdings Limited

@SuntoryHall_PR f@suntoryhallJAPAN



SUNTORY HALL

サントリー音楽賞

サントリー芸術財団は、1969年の設立以来、わが国における洋楽の振興を目的として、毎年、その前年度においてわが国の洋楽文化の発展にもっとも功績のあった個人又は団体を顕彰し、「サントリー音楽賞」(旧名・鳥井音楽賞)を贈呈しています。

《第50回(2018年度)サントリー音楽賞 贈賞理由》

高関健氏の存在は「指揮者とはどのような仕事なのか」という、一見すると単純な問いに対する、ひとつの確固たる答えを成しているように思われる。

楽譜テキストをその原典にまで遡って精査・吟味すること、泰西名曲に安住せず、しかし決して奇をてらうだけでもないプログラミングを構築すること、そしてどんな曲であっても細部まで手を抜かずに仕上げること。これら、当たり前のように成し得ない仕事を、高関氏は粘り強く継続してきた。

2018年においては、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団との第318回定期(ラヴェル「スペインの時」ほか)、第320回定期(ストラヴィンスキー「詩篇交響曲」ほか)、仙台フィルハーモニー

交響楽団との「日本のオーケストラ音楽」展(藤倉大「シークレット・フォレスト」ほか)、そして京都市交響楽団との第626定期(ブリテン「戦争レクイエム」)、などにおいて、とりわけ顕著な功績が認められた。また一般には単なるルーティンになりがちな年末の「第九」演奏会(東京シティ・フィル「第九特別演奏会」)においても、毎年新しい工夫を凝らしている点は特筆に値しよう。

派手なパフォーマンスとは無縁の指揮者ながら、高関氏の存在が日本の音楽界のレベルアップに大きな貢献を成していることは、おそらくはオーケストラ好きならば誰もが感じているに違いない。2018年に特別な「打ち上げ花火」的な演奏会はなかったものの、先に記した様々な演奏会において、常に賞賛すべき高い質を保持している点を鑑みて、サントリー音楽賞を贈賞する次第である。

PROFILE

高関 健

Ken Takaseki, Conductor

京都市交響楽団常任首席客演指揮者(2014年4月～)、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団常任指揮者(15年4月～)、仙台フィルハーモニー管弦楽団レジデント・コンダクター(18年4月～)、静岡交響楽団ミュージック・アドバイザー(18年4月～)、主席指揮者(21年4月～)。広島交響楽団音楽監督・常任指揮者、新日本フィルハーモニー交響楽団正指揮者、大阪センチュリー交響楽団常任指揮者、群馬交響楽団音楽監督(現在・名誉指揮者)、札幌交響楽団正指揮者などを歴任。桐朋学園在学中にカラヤン指揮者コンクールジャパンで優勝。ベルリンに留学しカラヤンのアシスタントを務めた。タングルウッド音楽祭でバーンスタイン、小澤征爾らに指導を受け、1981年にベルゲン交響楽団を指揮してヨーロッパにてデビュー。83年ニコライ・マルコ記念国際指揮者コンクール第2位。84年ハンス・スワロフスキー国際指揮者コンクール優勝を経て、85年1月に日本フィル定期演奏会で日本デビュー。以降国内オーケストラはもとより、ウィーン交響楽団、オスロ・フィル、デンマーク国立放送交響楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、クラウンフォラム・ウィーン、プラハ放送交響楽団、ケルン放送交響楽団などに客演。2017年4月には13年に続きサンクトペテルブルク・フィル定期演奏会を指揮、ロシアの名門オーケストラから豊潤な響を引き出し、聴衆や楽員から再び大絶賛を受けた。オペラでは新国立劇場『夕鶴』、大阪カレシジョオペラ『ピーター・グライムズ』などで好評を博し、09年のピエール・ブーレーズ京都賞受賞記念ワークショップではブーレーズから、ミッシェル・マイスキー、イツァーク・パールマンをはじめとする世界的な音楽家、特にマルタ・アルゲリッチからはシチェドリンの作品



の日本初演など3回の共演を通じてその演奏を絶賛されるなど、絶大な信頼を得ている。渡邊暁雄音楽基金音楽賞(1996年)、齋藤秀雄メモリアル基金賞(2011年)を受賞。東京藝術大学音楽学部指揮科教員兼藝大フィルハーモニア管弦楽団首席指揮者。

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団

Tokyo City Philharmonic Orchestra



1975年、自主運営のオーケストラとして設立。現在、常任指揮者に高関健、首席客演指揮者に藤岡幸夫、桂冠名誉指揮者に飯守泰次郎を擁する。設立直後にベオグラード音楽祭開幕演奏会を含むヨーロッパ公演、香港・マカオ公演を成功させ、プロ・オーケストラとしての軌道を築く。その活動は、定期演奏会、特別演奏会のほか、オペラ、バレエ公演やポップスコンサート、映画音楽、テレビ出演、CD録音、音楽鑑賞教室まで多岐にわたる。97年9月、ワーグナー指揮者として名高い飯守泰次郎が常任指揮者に就任。地域コミュニティでの活動も積極的に展開。94年から東京都江東区と芸術提携を結び、ティアラこうとうを主な拠点としてティアラこうとう定期演奏会やファミリーコンサート、公開リハーサル、楽器の公開レッスン、音楽鑑賞教室、区内小学校へのアウトリーチ活動など、地域に根ざした音楽文化の振興を目的に幅広い活動を行っている。2015年4月、楽団創立40周年を迎え、第4代常任指揮者に高関健が就任。第300回定期演奏会でのベルリオーズ『ファウストの劫罰』、第50回ティアラこうとう定期演奏会での『夕鶴』など、オペラ作品も積極的に取り上げ、いずれも好評を博した。これからの活躍が最も期待されているオーケストラのひとつである。